2023 年度　第３回秋田市中心市街地活性化協議会開催結果

2024 年３月 26 日（火）10 時 00 分より、秋田商工会議所ホール 80 において、秋田市中心市街地活性化協議会を開催しましたので、その内容について公表します。

（議事内容）

〇場　　所　　秋田商工会議所　７階　ホール 80

〇出 席 者　　委員：16 名　　オブザーバー：14 名　　計 30 名

〇協　　議　　（１）秋田市中心市街地活性化プランの変更（案）について
（２）2024 年度事業計画（案）・収支予算（案）について
（３）その他

〇報　　告　　（１）公共交通網の再編について
（２）秋田市中心市街地におけるクルーズ船受入対応について
（３）2024 年度広小路バザール開催要領について
（４）秋田市への要望に対する回答について
（５）その他

〇情報提供　　（１）東北経済産業局からの事業紹介

（発言内容）

【辻会長の開会挨拶】

- 2023 年度は、コロナが５類に移行し、これが秋田だ！食と芸能大祭典を皮切りに様々なイベントの開催や、台湾チャーター便の運航期間の延長、クルーズ船の寄港により大変大きな賑わいを見せている。
- 2024 年度も、６月に千秋美術館のリニューアルオープンが、７月には千秋公園お堀の遊歩道の供用開始が予定されている。また、来年は佐竹史料館の改築も完成するなど、観光面において中心市街地の更なる賑わいが期待される。先週 22 日に、今年初となるクルーズ船が寄港した際は、大きな効果があったと聞いた。
- 本日は、昨年 4 月からスタートした中心市街地活性化プランの変更案と、当協議会の 2024 年度事業計画案と予算案」について協議いただく。また、公共交通網の再編と中心市街地におけるクルーズ船の対応状況、2024 年度広小路バザール開催要領について報告後、東北経済産業局から支援施策を紹介いただく。忌憚のない意見をお願いしたい。

【協　　議】

（１）秋田市中心市街地活性化プランの変更（案）について

秋田市都市総務課の藤田課長が以下のとおり説明し、原案どおり承認された。

・秋田市中心市街地活性化プランについては、令和５年３月に策定し、今回が初めての変更となる。現在、官民合わせて 54 の事業を掲載しているが、一部変更点があることから、第１回変更案として提示し意見を伺うものである。
・今回の変更は、プラン掲載の各事業に「なつかし資料活用事業」、「国際フェスタ」、「サテライトオフィス誘致推進事業」の 3 事業を追加し、また、事業の実態に即し 1 事業の名称を変更している。
・「なつかし資料活用事業」は、旧金足東小学校、旧雄和ふるさとセンターおよび旧河辺農林漁業資料館で保管している資料等を活用し、にぎわい交流館 AU などの中心市街地の施設等で企画展示を行うことにより、中心市街地のにぎわいの創出を図るもの。
・「国際フェスタ」は、秋田拠点センターアルヴェにおいて実施するイベントであり、市民の国際理解に繋がる様々なブースを設け、外国人住民との交流を促進し、多文化共生理解の醸成や地域の国際化を目的としている。
・「サテライトオフィス誘致推進事業」は、中心市街地のサテライトオフィス等が不足傾向にあることから、国の交付金「デジタル田園都市国家構想交付金」を活用して同施設を整備する事業者を支援するとともに、企業誘致プロモーション活動を実施し、中心市街地内の企業誘致促進を図るもの。
・事業の追加に伴い、事業番号や事業数等についても整理し、事業リストを変更した。
・今後のスケジュールについて、３月中に中心市街地活性化協議会から本変更案についての意見を提出いただいた上で秋田市ホームページに変更後のプランを掲載する。

（２）2024 年度事業計画（案）・収支予算（案）について

事務局が以下のとおり説明し、原案どおり承認された。

（会　議）

・協議会は、３回（第１回：６月５日、第２回：12 月、第３回：３月）開催し、その他状況に応じて会長が招集し開催する。

（事業１：芸術文化ゾーン活用研究会）

・同ゾーンで開催されるイベントや各団体の取り組みについて情報共有を図り、連携体制を構築する。また、中心市街地の統一した情報発信の方策等についても検討を進める。

（事業２：アートなまち歩き発信事業）

・昨年リニューアルした簡易版パンフレット「アートなまち歩き」により、中心市街地で開催される企画展示等への来場を促し、会場周辺への回遊性向上へと繋げていく。また、同ウエブサイトは、掲載情報の充実と適時発信に努め、関係機関等との連携により露出機会を増やし、アクセス数の更なる増加へと繋げていく。

（事業３：広小路バザール開催への協力）

・中心市街地の定期的な賑わい形成と県内事業者の出店機会の提供を目的とする広小路バザールを引き続き支援する。

（事業４：千秋蓮まつり開催への協力）

・中心市街地における都市型観光の魅力アップを目的とする蓮の花ライトアップおよび千秋蓮まつりを引き続き支援する。

（事業５：情報発信事業）

・中心市街地３箇所に設置したパンフレットスタンドや中心市街地循環バス「ぐるる」の車内広告を活用し、構成団体の実施事業を広く周知する。

（事業６：調査研究事業）

・まちなかを車中心からヒト中心の空間へと転換を図る「ウォーカブルなまちづくり」について、年３回開催する協議会において、ゲストを招いた懇談形式などで毎回取り上げ、本市における可能性と在り方を探る。

（事業７：まちづくりセミナーへの周知協力）

・６月１９日「まちづくりセミナー」（主催：秋田商工会議所）の開催に際し、当協議会関係団体の積極的な参加を促す。

（事業８：秋田駅前歩道（三宅ビル隣地）の活用）

・秋田市より道路占有許可を受け、飲食店等に対する出店機会を提供し、駅周辺エリアの賑わい創出に活用する。

（事業９：あきたチャレンジマーケット・まちなカフェセット等の利用促進）

・中心市街地の賑わい創出と新たな出店を促進するため、クイックテントやテーブル等を無料で貸し出す。

（2024 年度収支予算案）

・収入の部／負担金は前年同額 200 万円（内訳：秋田市・秋田商工会議所から各 100 万円）、雑収入は預金利息の 20 円、前年度繰越金 150,997 円をそれぞれ計上し、収入合計金額は 2,151,017 円となる。

・支出の部／会議費は前年同額 75,000 円（内訳：委員謝金 60,000 円、案内発送代および会場使用料 15,000 円）、事業費は前年 5,000 円増額 1,965,000 円（内訳：アートなまち歩き制作費および同ウエブサイト運営管理費 700,000 円、広小路バザール負担金 900,000 円、千秋蓮まつり負担金 300,000 円、情報発信事業 55,000 円、東北地域関連セミナー参加費 10,000 円）、事務費は前年同額 20,000 円、予備費は 91,017 円をそれぞれ計上し、支出合計金額は収入合計金額と同額の 2,151,017 円となる。

＜意見・質問＞

秋田大学の篠原委員が以下のとおり発言した。

・秋田市中心市街地活性化プランについて、当協議会が目指す中心市街地の賑わい創出の主旨から外れるかもしれないが、防災や日常の都市生活に関する情報拠点整備を入れた方が安全性の保障から、長く暮らしたくなるまちへと繋がるのでは。一番の基盤となる部分をしっかりしないと活性化も何もない。その部分をしっかり取り組んでいるということを一つでもよいので本プランに入れることで安心感へ繋がると思う。

・特に、昨年は水害に見舞われ、秋田市内には昔から住んでいる方だけでなく、元々横手や湯沢にいた方が事業を起こそうと住んでいる方もいる。長く秋田に住んでいて色々な情報を持って

いる方が情報を提供してくれる場や、観光客が災害に遭っても避難できる標識や情報スペースがあると尚更本プランが輝くと思う。

あきた芸術劇場 AAS 共同事業体の嘉藤委員が以下のとおり発言した。

・千秋公園大手門の堀遊歩道の供用開始の時期と運用時間等について、公表できる範囲で内容を教えていただきたい。

秋田市公園課の小野課長が以下のとおり発言した。

・当初は４月供用開始を目指し整備を進めていたが、11 月以降に本体工事に着手するにあたり環境整備等の追加工事が発生した。年度末で進める中、遊歩道は市がデザインしたものであるため製品の調達が困難になってしまった。３月末までに本体は竣工予定だが、付帯工事や周辺の環境整備の契約・発注の手続きが必要となり、今年７月を供用開始としている。
・運営について、夜間はフットライト照明を 22 時で消灯し、22 時以降は遊歩道両側の入口に人感センサーを設置して、人が通行する際にアナウンスで注意喚起を促す方向で検討している。冬季は凍結も考えられるが、臨機応変に対応したいと考えており、冬期間の閉鎖については両側にゲートを設置して通行止めにする予定。

【報　　告】

（１）公共交通機関の再編について

秋田市交通政策課の栗林課長が以下のとおり報告した。

・本市では、高齢化や人口減少が進み都市機能の維持が懸念されており、公共交通についても利用者の減少や運転士不足等の様々な要因から非常に厳しい状況に置かれている。そのような中、将来にわたり持続可能な公共交通サービスを維持していくため、令和３年３月に「第３次秋田市公共交通政策ビジョン」を策定し、鉄道・バス・タクシーを組み合わせた一定頻度で運行できる公共交通網への再編を検討してきたところであり、この度、本市の路線バスの再編路線案を作成した。
・令和４年度から携帯電話の位置情報など人の動きに関するデータの分析を行ってきており、朝夕の時間帯および日中の時間帯で異なる移動特性を踏まえた再編路線案を作成した。なお、本案はバス事業者の意見を聞きながら作成しているが、具体的な運行についてはバス事業者側で回転地や待機場所などを含めて詳細な検討を行う必要があるため、今後、必要に応じて変更を加えていくことを想定したものとなっている。
・再編のポイントについて、１つ目はバス事業者としての経済性の観点だけでなく、地域の移動手段の確保という観点を重視している。２つ目は長距離路線を減らし、乗換えを前提とした短い路線を組み合わせることで、運行回数の増加を図るとしている。３つ目は今後さらにバス運転士が減少した場合を想定し、現在よりも少ない車両台数での検討をしている。
・朝夕の再編路線網の考え方は５ページの図１に示しているが、朝夕の時間帯は、総合病院や高等学校などの短時間に移動が集中する施設や地区と、交通結節点を結ぶ路線を幹線路線として、また、幹線でカバーできない地域から各結節点へ向かう路線を支線として位置付けている。

・日中の路線網の考え方は６ページの図２に示しているが、現在各地域への導入を順次進めている「エリア交通」と組み合わせることで、日常生活に必要な移動を確保するとともに、地域をまたぐような移動は路線バスや鉄道へ乗り継ぐことで移動できる路線網としている。なお、エリア交通とは、一定の区域内において、乗合タクシーとして運行し、地域での買い物や通院をカバーする移動手段として現在導入を進めているものである。
・３ページは各路線の概要を示しており、表中の「起終点・主な経由地」の中で、太字で示している箇所を今回新たに結節点として位置付けている。結節点を活用し、短い路線を組み合わせることで、これまでよりも高い頻度で運行したいと考えている。
・運行頻度について、現在の路線網は秋田駅を中心とした放射状の路線網となっている。結果として中心部に運行が集中している一方、場所によっては一日一往復のみの運行となっている路線もある。これを短い路線を組み合せた路線網とすることで、利用しやすく乗り継ぎもしやすい路線網へ再編したいと考えている。
・７ページは朝夕の時間帯における運行頻度の変化を示しており、左側の現況路線網では秋田駅から臨海十字路にかけての区間で非常に密な運行となっている一方、図面上に赤い線で示しているように朝のピーク時であっても１便程度の運行となっている区間も非常に多い状況となっている。右側の再編案では、図中に紫または黄色の線で示しているとおり大半を 3 から 6 便、幹線路線としては 11 から 15 便程度まで頻度を高められると考えている。
・８ページは日中の路線網となり、日中における再編案では朝夕に比べて路線の密度および運行頻度は低くなるが、その間をエリア交通が運行することで日常生活に必要な移動を確保するとしているものである。なお、地域間を結ぶ路線バスは、図面上に青い線で示すとおり３時間あたり７から 10 便程度の運行を想定しており、乗り継ぎにも配慮した路線網を検討している。
・今後の予定について、令和６年度中には事業者による具体的な運行経路およびダイヤの検討を進めたいと考えている。安定的な運行を確保するための、新たな支援制度の構築も併せて検討を進めたい。その後、令和７年度には検討結果を踏まえ試験運行の実施や許認可手続きなどを行い、令和８年度から再編路線での営業運行を段階的に開始していきながら、市民の移動を支えるセーフティネットとしての公共交通網を確保していきたいと考えている。

＜意見・質問＞
秋田大学の篠原委員が以下のとおり発言した。
・３ページの再編路線案一覧について、路線Ｎｏと起終点の間にある「病院」「通学」「通勤」は利用目的だと思うが、もし追加するとしたら「買い物」や「娯楽・慰安」が良い。秋田市と比べるとはるかに過疎地だが、天草や知床では意外に温泉に行く手段として利用されている。ちょっとした日用品は近くのスーパーで購入するとしても、時計や眼鏡などは秋田市中心市街地で購入することになると思うので、単に「買い物」ではなく「買回り品」でも良い。

秋田市交通政策課の栗林課長が以下のとおり発言した。
・ご指摘の「病院」と「通学・通勤」だけを目的としているのではなく、セーフティネットとしての公共交通網ということで、自分が行きたいところに行ける機会を確保することを目的としている。今後の事業者との検討を踏まえて、路線が形になった際には、この路線を使って買い物や観光施設等に行けるということを併せて周知していきたい。

秋田大学の篠原委員が以下のとおり発言した。
・バス事業者が持つ様々なデータを活用することで効率的な路線網が整備されると思う。

NPO 秋田バリアフリーネットワークの芳賀委員（代理）が以下のとおり発言した。
・将来的にライドシェアや自動運転を計画に盛り込む予定はあるのか。また、バス停の時刻表をスマートフォン対応や外国語対応とする計画はあるのか。

秋田市交通政策課の栗林課長が以下のとおり発言した。
・ライドシェアは、現在国で検討が進められているが、タクシー事業者が管理するため、ハイヤー協会をはじめタクシー事業者の意向や対象地域がどこになるのか見定める必要がある。自動運転は、各地で実証実験が行われているが、実現には時間がかかると捉えている。いずれはそのような時期が来ると思うが、現時点では進捗状況を見ながらの研究対象と考えている。時刻表のスマホ対応については、GTFS データをバス協会がオープンデータ化し、グーグルマップや乗換アプリ等に反映されており、路線等が現時点で検索できるようになっている。中央交通の路線バスについても、来年度、新しいシステムを導入しリアルタイムで運行状況を把握できるようになるため使い勝手は格段に上がる。外国語対応についても、今後、ホームページを通じて対応する必要があると考えている。

（２）秋田市中心市街地におけるクルーズ船受入対応について

秋田市観光振興課の高嶋課長が以下のとおり報告した。
・クルーズ船の寄港は、コロナ禍で一時中断していた時期もあったが、令和４年５月に内航船の受入を再開し、令和５年３月にはようやく外航船の受入も再開した。秋田港の寄港回数は、コロナ禍以前の 21 回が最多だったが、令和５年には過去最高の 23 回となった。令和６年は予定の段階だが、それを超える 26 回の寄港が予定されている。平成 26 年頃までは寄港回数が１桁台だったが、それ以降は右肩上がりで寄港回数が増え、特に外航船で乗客定員が 2,000 人を超える大型船が増えている。
・令和６年の寄港予定について、秋田港では全 26 回の寄港予定で、うち外航船が 21 回、内航船が５回となっている。外航船 21 回のうち 15 回が、乗客定員が約 2,000 名を超える大型船のため、中心市街地にも多くの船客が訪れるものと期待している。
・秋田港から中心市街地への移動経路について、クルーズ船客は約半数程度が船会社企画のオプショナルツアーで県内観光地を巡り、残る約半数は個人での観光や中心市街地等で自由散策を楽しんでいる。クルーズ列車は、乗船客だけが乗車できる特別な列車で、貨物で使っていた線路を利用して JR が特別に運行している。
・クルーズ船客は、下船するとクルーズターミナルを通過して、船会社が用意するシャトルバスやクルーズ列車などで中心市街地へ移動する。シャトルバスは、ほとんどが秋田キャッスルホテル前に乗降場所を設けているため、そのまま中心市街地の観光や散策に出かけて行く。中心市街地を運行している循環バス「ぐるる」は、市内に点在している観光施設やスポットなどを巡るのに最適な移動手段となっている。クルーズ船客には高齢の方も多いため、徒歩での移動が困難な場合もあり、毎回「ぐるる」を紹介し、たくさんの方に利用いただいている。

・多くのクルーズ船客に中心市街地で楽しんでいただくため、様々な取組を行っている。乗客定員が約 2,000 人を超える大型船の場合は、可能な範囲で秋田の伝統芸能や食などを楽しんでもらえるよう、なかいちやアゴラ広場などでおもてなしイベントを実施している。
・昨年まで実施した取組として、ジャパネットでチャーター運航したＭＳＣベリッシマの寄港に合わせ、秋田商工会議所や各商店街などの協力のもと、観光施設や商業施設、飲食店などをマップやリストに記載してクルーズ船客に楽しんでいただいた。
・令和６年度からは、船客向けの新たなサービス提供として、当課で昨年から実施している「あきた観光パスポート」を紹介することとしている。本サービスは、ラインを活用した情報提供サービスで、男鹿市・潟上市との３市連携で運用している。観光情報の発信のほか、観光スポットや登録店舗の紹介、デジタルクーポンの発行などができるサービスで、登録店舗を増やすことで、クルーズ船寄港時以外にも様々な場面で秋田に来ていただいたお客様に楽しんでもらうことができると考えている。
・クルーズ船の寄港は本市に大きな波及効果を生むものと考えており、クルーズ船の寄港誘致や乗船 PR などをしているほか、埠頭での歓迎行事やアトラクション、観光案内、秋田の産品販売などを行っている。クルーズ船で本市を訪れたお客様には、秋田の魅力を存分に楽しんでいただくことで、再訪してもらうことが本市の取組の成果につながるものと考えおり、皆様には引き続き協力をお願いする。

＜意見・質問＞
仲小路振興会の三浦委員（代理）が以下のとおり発言した。
・クルーズ船寄港時の商店街への誘客は難しいと感じている。事前に配布するマップ等で商店街を PR できるものがあればと考えているが、そのようなマップは「とくとくてくてく MAP」以外にあるのか。また、マップへの掲載申込みに際して期限等はあるのか。

秋田市観光振興課の高嶋課長が以下のとおり発言した。
・商店街等に情報提供しながら進めていくが、事前に情報提供できる船とできない船がある。情報提供できる船に関しては、船内にチラシ等を入れることが可能だが、できなかった場合は寄港時のクルーズターミナルで配布するなど対応している。
・直近になって情報が入るため難しいところではあるが、情報が入り次第協力いただける先には情報を提供し、掲載またはチラシ等の配付が可能かどうかを確認して取り組んでいきたいと考えている。

NPO 秋田バリアフリーネットワークの芳賀委員（代理）が以下のとおり発言した。
・シャトルバスやクルーズ列車で何人ぐらいが中心市街地を訪れ、何処に行って何にお金を使ったかなどのデータはあるのか。

秋田市観光振興課の高嶋課長が以下のとおり発言した。
・正確な数字は持っていない。船の大きさにもよるが、乗船客の約半分が船会社企画のオプショナルツアーに参加し、残りの半分のうち 7 割から 8 割が個人でタクシーやシャトルバスを利用しているようだが、何処に行って何にお金を使ったか把握しきれないのが現状。

（3）2024 年度広小路バザール開催要領について

事務局が以下のとおり報告した。

・秋田市中心市街地に定期的な賑わいを形成するとともに、県内事業者の中心市街地への出店機会を提供する目的で開催する。2024 年で 4 年目を迎え、通算 5 回目・6 回目の開催となる。これまでの実績を踏まえながら、より賑わいを創出できるよう周辺施設や近隣商店街と連携を深めて実施する。

・開催日時は、1 回目が 7 月 15 日、2 回目が 9 月 29 日、いずれも 10 時から 15 時までの開催で、8 時 30 分から 16 時 30 分までの交通規制を予定。会場は昨年同様、広小路と中土橋を予定。来場者数は、前回の実績を踏まえ各 5 万人の計 10 万人を見込む。出店概要は、県内に店舗等を有する事業者を対象に 78 コマの出店枠を用意。内訳は、テントブース 50 コマ、キッチンカー20 コマ、ご当地パラソルアイス 8 コマ。出店料は、前年を見直し、テントブースとキッチンカーそれぞれ 2 万円、ご当地パラソルアイスは 1 万円とする。

・連携イベントは、7 月は AKT 夏まつり、9 月は ABS まつりとの同日開催を予定。その他、ミルハス、文化創造館、秋田駅西口駅前広場で開催されるイベントとの連携を予定している。外国人対応として看板への英語表記などにも配慮する。

（4）秋田市への要望に対する回答について

事務局が以下のとおり報告した。

・昨年 11 月に開催した秋田市と秋田商工会議所との懇談会において、当所から秋田市長へ手交した要望書に対する秋田市からの回答から中心市街地関連のみ 5 項目を抜粋して報告する。

（ウォーカブルなまちづくりの推進）

・まちなかを車中心から人中心の空間へと転換を図る「ウォーカブルなまちづくり」について、国の施策を十分に活用し道路空間の利活用による賑わい創出や歩行環境の整備による回遊性向上など、中心市街地におけるウォーカブルなまちづくりを官民一体で検討する場を設置し、より一層積極的に推進していただきたい。

・秋田市中心市街地活性化プランにおいて、回遊性の向上が活性化のための課題の一つとなっており、回遊性の高いウォーカブルなまちづくりの重要性は認識している。既存の道路空間の利活用も一つの手法になると捉えているが、空間的制約や実施主体、維持管理体制など、実施にあたっての課題も多いことから官民一体での検討の場の在り方等について今後協議していく必要があるものと考えているとの回答。

（秋田市の歴史と千秋公園の魅力を活かした観光地域づくりとインバウンド対応の推進）

・秋田藩の城下町である地域の魅力に磨きをかけることで観光地としての価値向上と発展に繋げるため、歴史的風致維持向上計画の認定による国の支援なども活用し、千秋公園について観光資源としての積極的な活用を進めていただきたい。また、外国語案内表示の充実や宿泊施設・飲食店・土産品店と連携した海外旅行者向け情報発信などインバウンド受入環境を整備していただきたい。

・佐竹史料館のリニューアルオープンに向けた改築事業を進めるなど、更なる魅力向上に取り組んでいる。また、クルーズ船の寄港や台湾チャーター便の運行再開など、海外からの旅行者は更に増加することが想定されることから、秋田市まちなか観光案内所を活用するほか、引き続

き、関係団体等と連携し、情報発信に努め、インバウンドの受入体制の整備も進めていくとの回答。

（中心市街地の活性化に向けた取組への継続支援）

・これが秋田だ！食と芸能大祭典の継続開催と広小路バザール開催への支援を要望。

・これが秋田だ！食と芸能大祭典は、より魅力あるイベントとして開催できるよう、関係団体とともに開催手法等について検討し、広小路バザールは引き続き支援するとの回答。

（秋田市ナイト観光の更なる充実に対する継続支援）

・千秋公園蓮の花ライトアップと併せて当所が実施する千秋蓮まつりの継続へ向け、一層の支援をいただくとともに、来年度新設される大手門の堀の親水遊歩道とマッチした景観となるようライトアップの方法を検討していただきたい。

・ナイト観光の定着に向けた支援を継続するとともに、大手門の堀等親水遊歩道の整備を見据えたライトアップ手法等について検討するとの回答。

（秋田市中心部での水害対策の早期実施）

・７月に発生した記録的豪雨災害を踏まえ、秋田市中心部は県内経済を支える事業所が集中する地域であり、今後発生しうる豪雨災害時における浸水被害による生活や事業活動等への影響を最小限に抑えるためにも同地域における浸水対策を早期に実施していただきたい。

・令和５年 11 月 10 日に河川改修や雨水幹線、逆流防止ゲートの整備などハード対策のほか、内水浸水想定区域図の作成前倒しや水害ハザードマップの更なる活用などのソフト対策を盛り込んだ水災害対策プロジェクトを公表した。今後は、市民生活の安全安心を確保するため、本プロジェクトにおける本市が担う対策について、関係機関と連携しながらスピード感を持って取り組んでいくとの回答。

【情報提供】

（１）東北経済産業局からの事業紹介

閉　　会